

に退色しない場合に過酸化水素水(オキシフル, オキシドール等)を注加している人もあるようであるが, 過酸化水素水を加えると著しく泡立つので, 微細な被殻や微量の材料では被殻が散逸することもあるので不適當である。またオキシフルなどは封を開いてしまうと余り永く使用ができない。

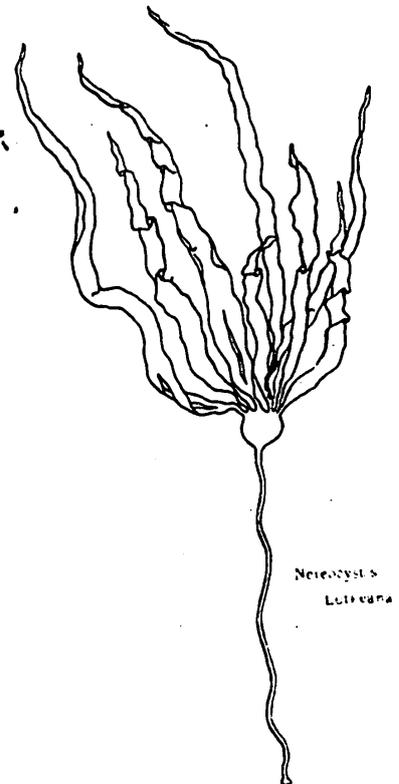
多数の材料をつぎつぎに処理するには, いちいち密栓をする必要のある薬品では不便であつて, スリ合せの余り密でないガラスの広口瓶などに小出しにして置いても変化しない薬品でなくては便利とは言えないのである。筆者の方法はそうしたことも予じめ考慮してある。

岡村金太郎先生の小品文

久内清孝

K. HISAUCHI: Some short pieces by Dr. K. OKAMURA

北米の西部海岸に産する昆布らしくもないコンブ科の巨大藻 *Nereocystis Luetkeana* POST. et RUPR. というものを第七永昌丸とという漁船が釧路沖で拾い上げたこと, これに英名 Bull kelp に因んでブルウキモなる新和名を与えたことを図入りで, 今は廃刊になつている植物及び動物の7巻11号(1939)誌上で, 時田鰐博士が報告されたことがあつた。これより先に岡村金太郎先生は2回にわたりこの藻の漂着のことをアミーバという同好雑誌の1巻2号(1929)と3巻1-2号(1931)にかかれた。第1のもの表題は「*Nereocystis Luetkeana* (MERT.) POST. et RUPR. を根室に得たり」で, 齒舞村友知海岸で得られたこと, 第2の場合は「再び *Nereocystis* の漂着に就て」なる見出で, 岩手県気仙郡喜来村地先で拾われたことを略図入りでかかれています。こんなことを, いまとりたてていうのは, この一筆がきの図が, 先生の肉筆らしく, 面目やく如たるものがあることと, アミーバなる刊行物はぜいたく



アミーバ所載岡村先生筆の
ブルウキモ

な同好雑誌で第5巻(1933)で終つたため分布範囲が狭く、その上戦災のため近頃ではだんだん見られなくなつたからである。

ついでに、この雑誌の第1巻1号(1929)に岡村先生は「緑藻類の利用」と題して南洋パラオで *Spongocladia dichotoma* (ZANARD.) MURR. et BOODLE が工芸品の材料として屯130円で取引されていたとかかかっている。また第5巻(1933)には「神津島の生物相の一端」というのもかかかっているが、これは動物学者の阿部徹氏の年賀状の転録で植物には全く無関係である。

以上岡村先生のかかれたものは何れも小品で、今度出版された E. H. WALKER 氏の東亜植物文献目録補遺にもものつていないし、あまり人に知られていないらしい。ブルウキモについては時田氏が、わかり易いようにかかかっているし、藻類系統学にもあるのでここには略した。

第10回太平洋学術会議 (Tenth Pacific Science Congress) の開催について

本年8月21日から9月6日までオアフ島ホノルルのハワイ大学で第10回太平洋学術会議が行なわれる。この会議は1920年8月ホノルルで第1回会議が行なわれて以来太平洋を繞る各国に於いて行なわれ、その第3回は1926年10-11月にかけて約2週間東京に於いて開催された。即ちホノルルでは2回目の開催であるが、第3回目までは Pan-Pacific Science Congress と云われたが第4回目からは表題の様になつて現在に至つている。

この会議は科学のあらゆる部門に亘つて行なわれる。即ち (1) Agricultural Science, (2) Anthropology and Social Science, (3) Biological Science, (4) Conservation, (5) Forestry, (6) Geography, (7) Geophysical Science, (8) Public Health and Medical Science 及び (9) Scientific Information の9部門であり、この中に多くの部会及びシンポジウムが含まれている。以上の中我々に関係の深いものとして生物科学部門があるが、その植物部会でハワイ大学のドティ教授が司会者となつて“太平洋海域の藻類とその生産力”についての討議が行なわれる。

この会期中ホノルルの Bishop Museum, Experiment Station of the Hawaiian Sugar Planters' Association 及び Pineapple Research Institute の見学が行なわれる。又この会議が終つてから (1) 一般見学, (2) 地球物理・地質学, (3) 植物・林学及び (4) 作物・土壌学の為の各見学旅行が行なわれるが、この各コースの中には有名なキラウエア火山が入られている。植物学関係の旅行は9月3日から12日までハレアカラ、クラニ、及びコナの森林、カウの砂漠、コーヒ栽培地等の見学をする事になつている。